

**研究助成制度
フォローアップ調査結果
(平成30年度実施)**

平成31年3月

公益財団法人 日本食品化学研究振興財団

調査対象、調査方法等

- 調査方法

調査対象者に調査票を送付し、記入・返送するアンケート方式による調査

- 調査実施時期、経過

平成30年10月：調査票送付、30年10月末：回答締切、
30年11月～31年2月：集計、解析

- 調査対象

平成21～25年度の間に関与助成を受けた69名(72研究課題)を対象とした。(平成21年度以前からの継続する研究課題及び事前に死亡確認した者を除く。)

回答数・データの説明

- 回答者数、回答率等

回答者：課題数：47名・49課題

回答率：回答者数での回答率 68.1%
課題数での回答率 68.1%

- データ数の説明

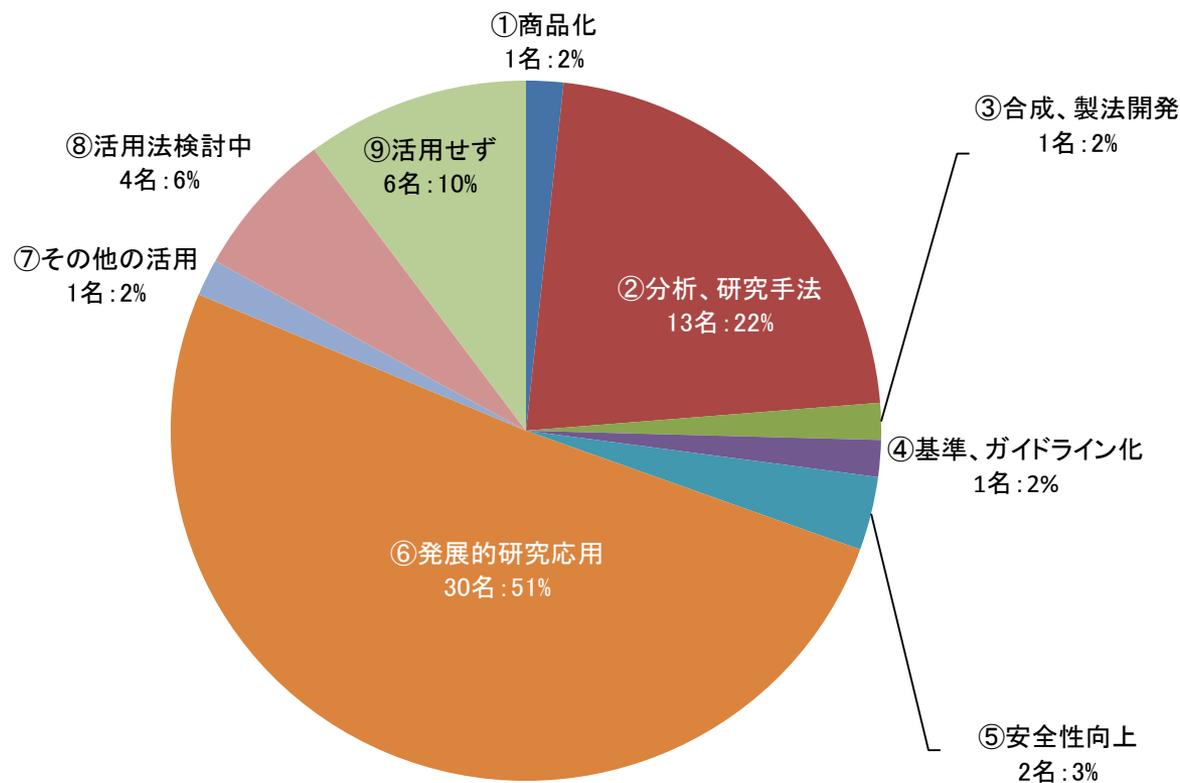
- ・「・・・名」であらわすものは、回答者数(総数47名)
- ・「・・・件」であらわすものは、助成研究の課題数を件数としたもの(総数49件)
- ・複数選択可能な設問もあり、その場合は上記総数に一致しない

助成研究成果の活用状況(Q1.2)

複数回答(総回答数59件)

Q1:助成研究成果をどのように活用したか?

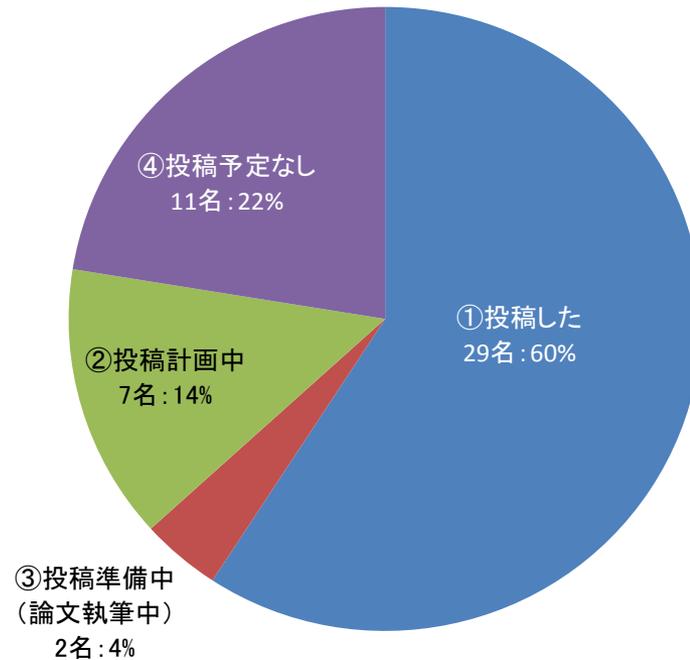
Q2:具体的に記述



論文投稿状況 (Q3.4)

Q3: 助成研究の成果について論文を投稿されましたか？

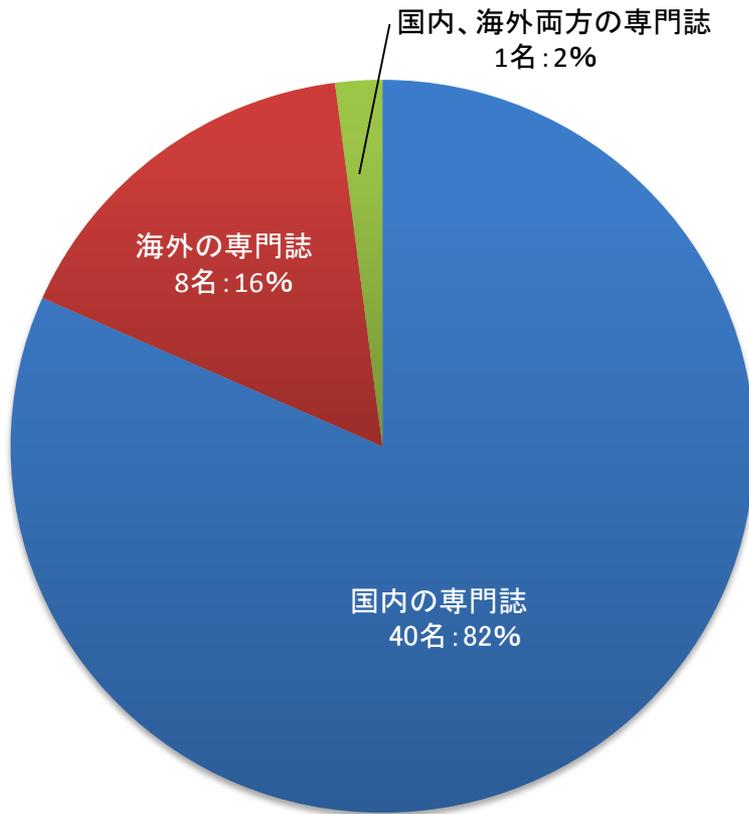
Q4: 具体的記述



論文の投稿先(Q4)

(前の設問のうち、投稿した29件の内訳)

Q4:論文の投稿先について



- **国内専門誌:**

日本食品化学学会誌、
日本食品工学会誌
日本の各種学会
(食品衛生学雑誌、食肉の科学、
科学工業、日本ロボット学会誌、
園芸学研究、農林業問題研究
FFIジャーナル) など

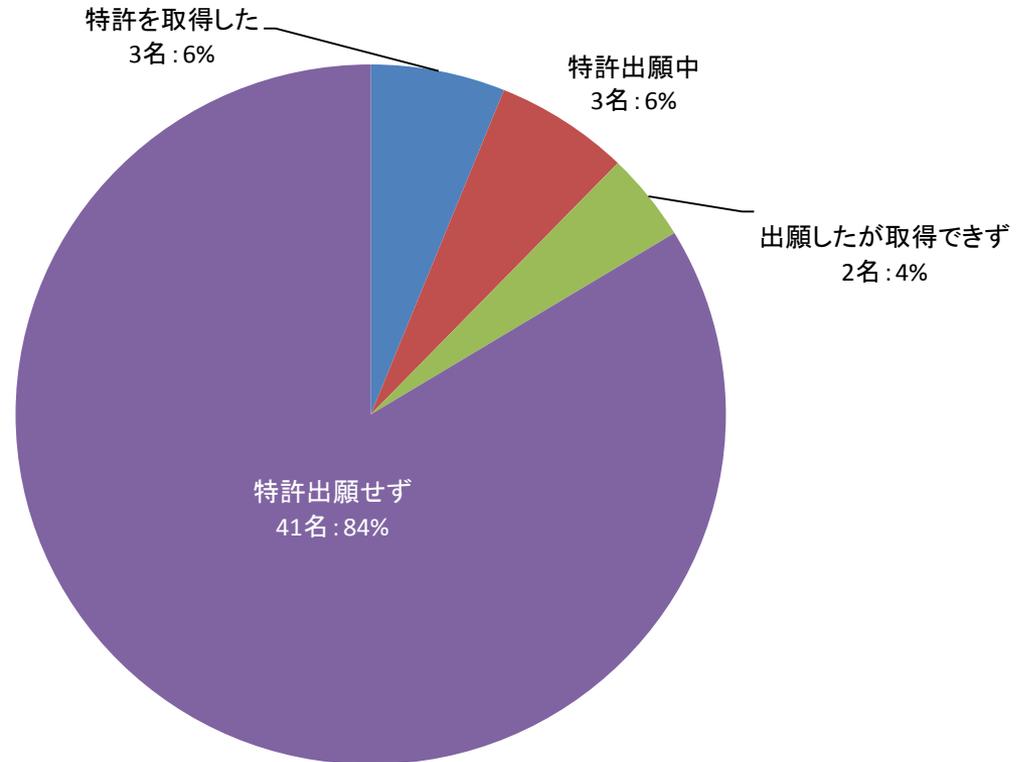
- **海外専門誌:**

"Biochem.Biophys.Res .Commun."
"Chemical and Pharmaceutical Bulletin"
"Food Chemistry"
"Food Hydrocolloids"
"Food Research International"
"Journal of Pharmaceutical Sciences"
"PLOS One" など

特許取得状況 (Q5.6)

Q5: 特許等の取得状況

Q6: 具体的に記述



関連研究等での国の研究費 取得状況 (Q7.8)

Q7:本研究テーマまたは関連のテーマでの国の
研究費の取得状況
Q8:具体的に記述

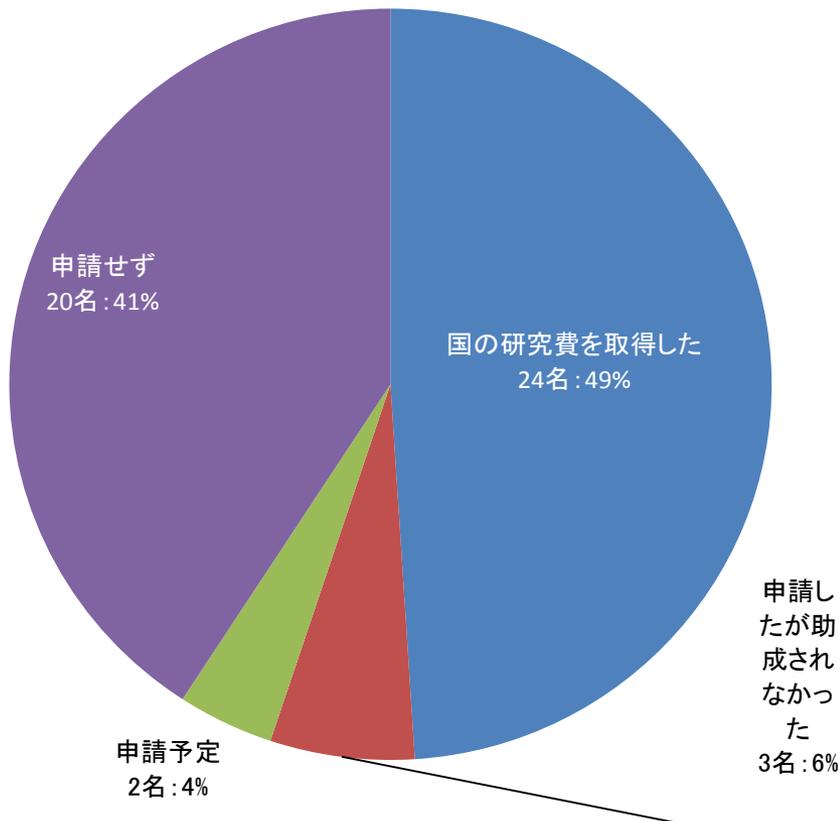
- **取得した国の研究費**

大半が科研費の基盤C

他に、

科研費 若手B
(文科省)研究費
(農水省)研究費

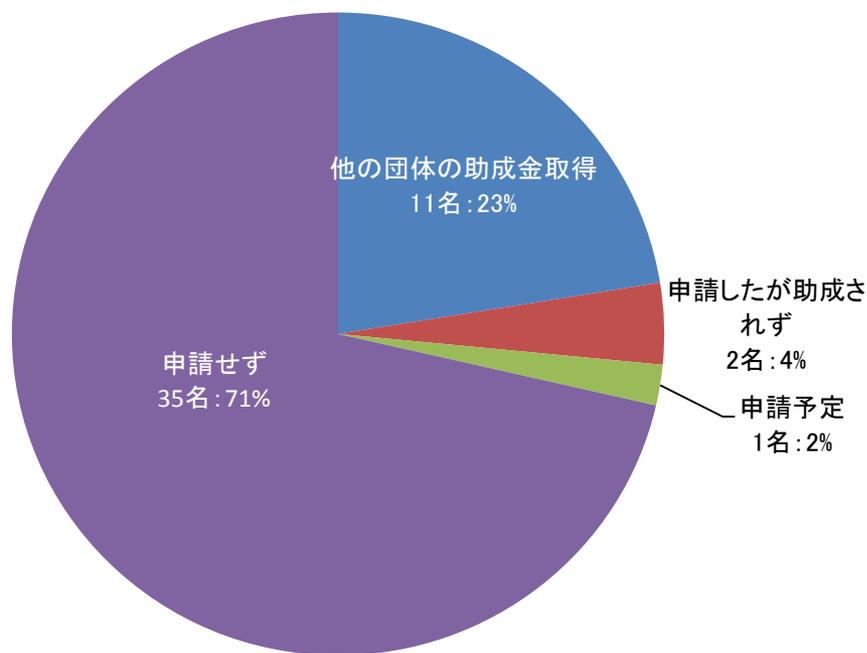
など



関連研究等での他の助成団体からの 研究助成金取得状況（Q9.10）

Q9:本研究テーマまたは関連のテーマでの他の
助成団体からの研究助成金の取得状況

Q10: 具体的記述

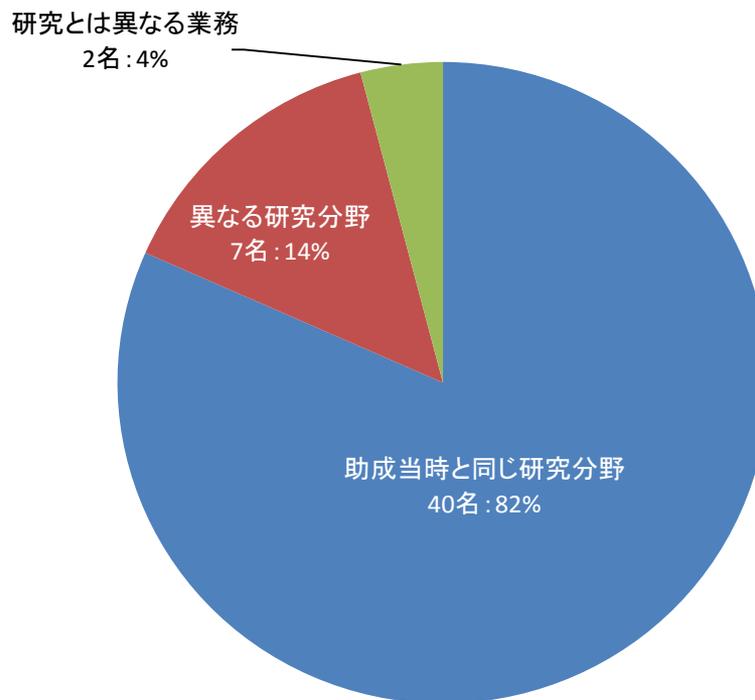


• 助成を受けた団体

すかいらーく フードサイエンス研究所
不二たんぱく質研究振興財団
ソルト・サイエンス研究財団
日本カシス協会
東和食品研究振興協会
ホクト生物科学振興財団
立石科学技術振興財団
京都大学教育研究振興財団
武田科学振興財団ライフサイエンス

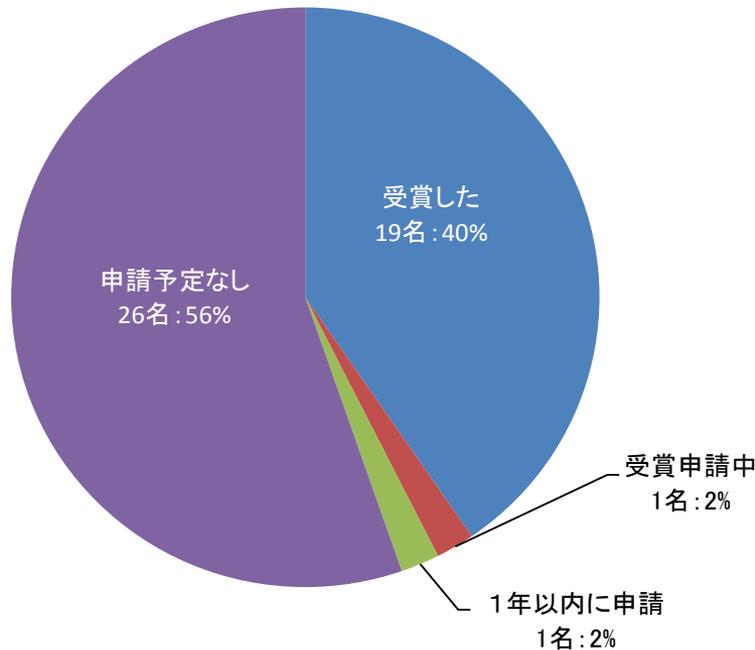
研究分野の変化について(Q11)

Q11: 研究分野の変化について



助成した研究業績等に係る受賞歴 (Q12.13)

Q12: 助成した研究及び食品科学関連研究の業績
に対する表彰について
Q13: 具体的記述



受賞名

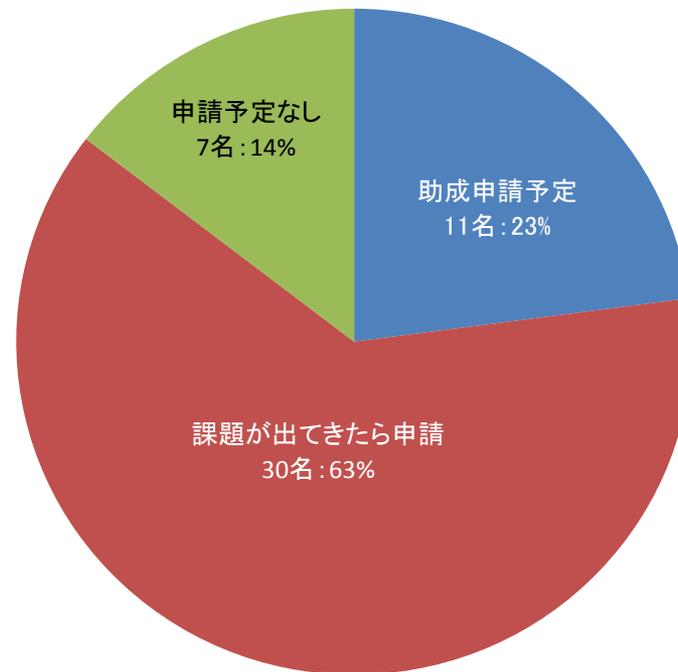
- 日本食品化学学会各賞
- 日本食品科学工学会奨励賞
- 日本食品工学会学会賞
- 日本栄養・食糧学会学会賞
- 日本摂食嚥下リハビリテーション学会奨励賞
- 日本農芸化学奨励賞
- 日本ブドウ・ワイン学会技術賞
- 日本ロボット学会学会誌論文賞
- 森永奉仕会賞
- 三島海雲学術賞
- 安藤百福発明発見奨励賞
- 遠山椿吉賞

など

(注) 同一研究者・同一課題で複数の表彰を受けた例も含まれる

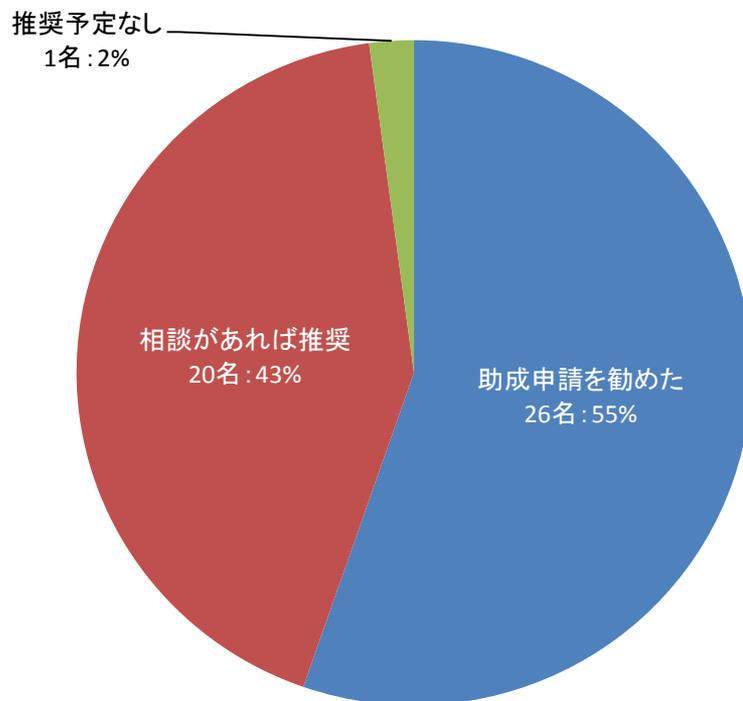
今後の当財団の助成を受ける予定 (Q14)

Q14: 今後の当財団の助成を受ける予定



他の研究者への当財団助成制度の推奨 (Q15)

Q15:他の研究者への推奨について



当財団及び研究助成制度に対する意見(全て掲載)-1

- 新しい研究に取り組むためには、大変有難い研究費です。今後も萌芽的(挑戦性の高い)研究に助成して頂くことを希望しています。
- 非常にありがたい制度で有り、今後も継続して行ってほしい。
- 食のレギュラトリーサイエンスの基礎となる研究は、多大で地道な作業を伴うものが多いですが、一方で得られる効果はインパクトの小さなものが多く、あまりやりたがらない領域になりがちです。またそのような基礎となる研究を、自由度高く進めることのできる機会はほとんどありません。本助成制度は、そのような食のレギュラトリーサイエンスの基礎研究まで対象に含まれ、それを自由度高く実践できる機会をあたえてくれるとても有意義な制度であると思います。
- これからも研究助成制度を継続いただけますようお願い申し上げます。大学研究者にとって貴財団の研究助成制度はなくてはならないライフラインとなっています。
- 大変使い易い助成で有難かった。
- なるべく若手研究者に積極的に助成されることを望みます。
- 基礎研究に対する研究支援が少ない中、本助成制度には大変助けられました。ぜひ若手研究者の支援をお願いします。
- 期間(募集から報告書まで)、金額について申し分ございません。
- 幅広い視点から助成対象を選んで頂けるすばらしい助成制度だと思います。
- 競争的研究費の取得が難しくなっていますので、今後も助成制度は続けて頂ければと思います。
- 他の財団では若手に限る助成や、ある分野を長期的に助成しているものもある。一部を若手枠にするなどできないか。
- 新しい研究を立ち上げるに当たり、助成を頂き大変助かりました。深く感謝しております。報告書のタイミングも適切であったと思います。
- 多くの申請件数を選択してほしい。
- 大学の研究費が削減されている現状から、この助成制度の意義は大きく、今後も継続していただきたいと考えています。

当財団及び研究助成制度に対する意見(全て掲載)-2

- 大学設立間もないころに助成を頂きました。一人で研究を立ち上げていたこともあり、自分の自信にもなり、また、助成金で実験器具が購入でき、大変助かりました。ありがとうございます。報告書作成時には、分からない点もありご迷惑をお掛けしてしまったのではないかと、心苦しく思っております。私のように1人細々(もくもく)と研究を続けている研究者に、これからも支援を続けて頂きたいと思っております。また、助成申請をさせて頂きたいと思っております。よろしくお願い致します。
- 貴財団での助成は、scienceに重きが置かれていると感じております。応用向けの助成は多くみられますが、基礎やレギュラトリーへの助成は少ないと思いますので、今後も是非現状を続けていただきたいと思っております。
- 多くの助成制度が出版した論文を中心に審査するケースが多いが、新しいアイデアを求めるような科研の挑戦的のような申請も選択されることが望まれる。
- 貴財団からは、2年に亘り研究助成をいただいております。1年間での助成が多い中、2年間のご支援をしてくださることで、研究の幅が広がり成果を学会や論文等で発表することができ、今も研究を継続中です。心よりお礼申し上げます。また、年齢に制限されることなく、更に現状の成果だけでなく将来の展望を評価していただける貴財団の助成制度は、大きな励みとなりました。貴財団のような助成制度、ご支援は、若手研究者が挑戦的な研究課題に取り組みやすい環境をつくるうえで、大きな価値があると思っております。
- 新しいテーマへの挑戦に対する助成も必要ですが、大学の運営費が減少している昨今、研究の継続のための助成という制度はないのでしょうか。「受託研究の募集」に近いかもしれません。研究の継続の中から発見もあり、又応用(活用)も生まれてくるものと思います。申請書類を作る側としましても、新たな手法での申請書類は書きやすいのですが、これまでの手法での申請はなかなか難しいものです。
- 今まで通り細かな助成を続けて頂きたいと思っております。助成していただき有難うございました。
- 東日本大震災の最中に受賞の連絡を受け研究室の一番大切な時期に助成をいただいた。感謝しております。

当財団及び研究助成制度に対する意見(全て掲載)-3

- ・ お世話になりありがとうございました。
- ・ 助成期間の延長について、柔軟な対応があると有難い。
- ・ 今後ともご支援の程宜しく願います。
- ・ 研究費が不足して、十分な研究を行えない時期に助成していただき、大変助かりました。その後の研究発展に大いに役立ちました。貴助成制度が多くの研究者に交付されることを願っています。本当にありがとうございます。
- ・ 貴財団の助成は大変有難かった。今後フレイバー関係への助成が増えることを期待いたします。
- ・ 当時は大型予算がなく、助成金は大切にに使わせていただきました。
- ・ 貴重な助成の機会を頂きまして改めてお礼申し上げます。
- ・ 貴重な予算をありがとうございました。
- ・ 素晴らしい助成制度ですので、今後とも継続してもらいたい。